

**製品名: GSDMD ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe03774**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000
分子量	Calculated MW: 53 kDa; Observed MW: 53 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GSDMD
別名	DF5L; DFNA5L; FKSG10; GSDMDC1
遺伝子 ID	79792
SwissProt ID	P57764
免疫原	ヒト切断型 C 末端 GSDMD の合成ペプチド

**背景**

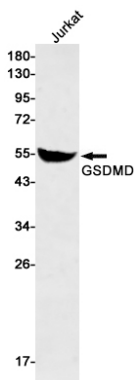
ガスデルミン D、N 末端: 微生物感染および危険信号に応答してピロプトーシスを促進する。ガスデルミン D は、炎症性カスパーゼ

CASP1 または CASP4 によって、標準的なインフラマソーム活性化因子および非標準的なインフラマソーム活性化因子（細胞質 LPS など）に反応して切断されて産生される（PubMed:26375003、PubMed:26375259、PubMed:27418190）。切断後、細胞膜へ移行し、そこで内葉脂質（ホスファチジルイノシトール 4-リン酸などのモノリン酸化ホスファチジルイノシトール、ホスファチジルイノシトール(4,5)-ビスリン酸などのビスリン酸化ホスファチジルイノシトール、ホスファチジルイノシトール(3,4,5)-ビスリン酸など）と強く結合し、ホスファチジン酸およびホスファチジルセリンとは弱く結合する（PubMed:27281216）。膜内でホモオリゴマー化し、内径 10~15 ナノメートル（nm）の細孔を形成することで、成熟 IL1B の放出とピロプトーシスの誘発が誘導される可能性がある（PubMed:27418190、PubMed:27281216）。殺菌活性を示す。ガスデルミン D は、ピロプトーシス細胞から細胞外に放出された N 末端が、グラム陰性細菌およびグラム陽性細菌の両方に迅速に結合して殺菌します。脂質結合特異性により、外部から細胞膜を破壊しないため、隣接する哺乳類細胞に害を与えることはありません（PubMed:27281216）。細胞培養条件下では、リステリア・モノサイトゲネスなどの細胞内細菌にも活性を示します。カルジオリピンを含む細菌およびミトコンドリア脂質に強く結合します。非リン酸化ホスファチジルイノシトール、ホスファチジエタノールアミン、ホスファチジルコリンには結合しません（PubMed:27281216）。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



GSDMD 抗体を使用した Jurkat 溶解物中の GSDMD のウエスタン プロット分析。